

子どもたちが見える一ペを自在に使いこなせるようになれば、社会科はきっと面白くなる

授業の中で生徒たちに予想させてみると、

生徒は無意識のうちに、いろいろな“方法的な知識”を発揮して考えを生み出します。

方法的な知識とは、「様々な事象を考える際に手がかりになるような、汎用性のある知識」のことです。

※詳しくは、論文を読んでいただければ幸いです。

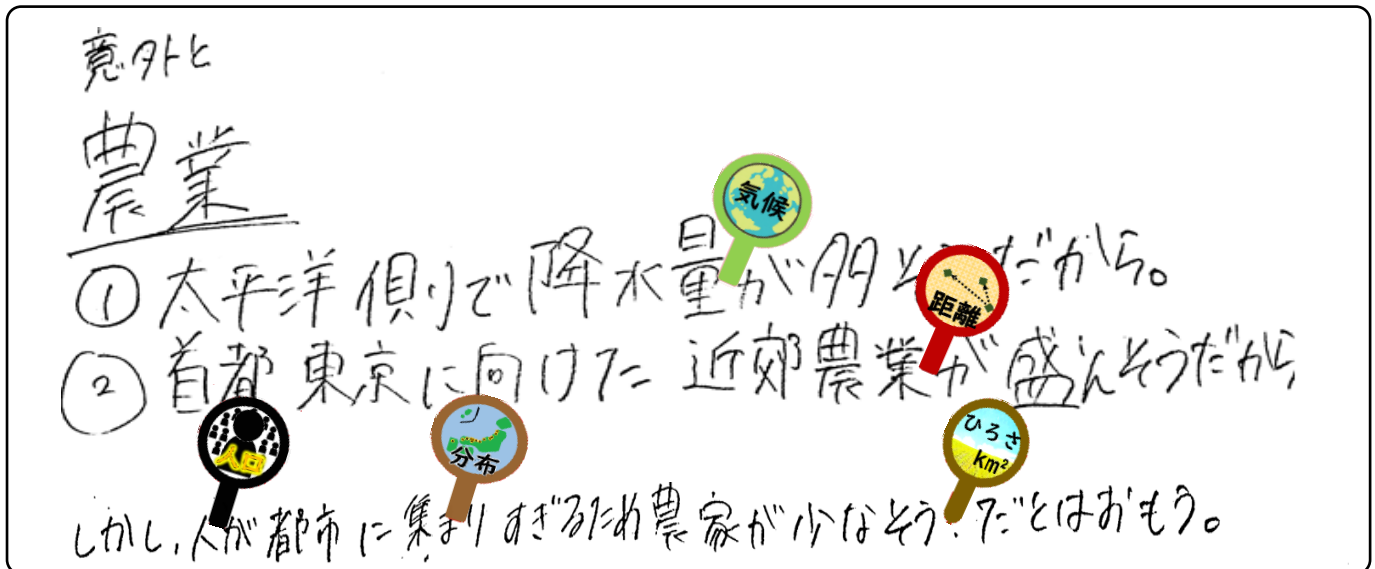
下の生徒の記述は、産業を中核に学習した中部地方の単元のまとめとして、

関東地方の主要産業を予想する学習に取り組んだときのものです。

意外と
農業

① 太平洋側で降水量が多そうだから。
② 首都東京に向けて 近郊農業が盛んそうだから

しかし、人が都市に集まりすぎると農家が少なそう。？とはおもう。



この例の場合、

- ・位置や気候
- ・人口分布
- ・広さ
- ・都市との距離

が、地域の主要産業に関係する場合がある

という方法的な知識が発揮されています。

指導者が、「位置に着目して、気候と結び付けて考えたんだ!」

「なるほど、都市と周辺部の距離に注目して予想したんだね」

「人口分布と農地スペースをつなげて考えると、農業と言いきれないと考えているんだ」というように、

問題解決に向けた思考過程で発揮されている方法的な知識を“見える一ペ”を使って可視化しながら、価値付けます。

可視化による方法的な知識の価値付けを繰り返すことによって、
生徒が別の場面で、何かを予想したり考えを生み出したりする際、

「この問題は、地形に着目して考えてみたらどうなるかな?」

「人口分布はどんな感じ? もし分布に偏りがあるなら…」

と、次第に**無意識ではなく、意図的に**

方法的な知識を発揮して、じょうずに問題解決できるようになることを目指します。

